



戻ってしまう

選んでいるのではなく、
同じ戻り方をしている。

理由はない。
ただ、方向だけが一定になる。

選び直しているようで、
軌道は変わらない。

何度も同じ場所を通過する。

不足ではない。
欲求でもない。

満たすためでも、補うためでもない。

それでも、偏りは残る。

濃さ。
硬さ。
重さ。
あるいは、極端な静けさ。

それらは対象の性質ではなく、
触れている輪郭として現れる。

身体が選んでいるのではない。
選び方のほうが先に固定されている。

動いているようで、
わずかにずれながら、同じ流れに戻る。

反復は、行為ではなく、
状態の維持として起ている。

変えようとする、
同じ形で崩れる。

変わらないのではなく、
抜け出せていない。

ほどけるときだけ、
反復は止まる。

順序はない。



繰り返されていたのは、
選択ではなく、
そのままにいようとする動きだった。

Edition ー 身体の内景
別景：戻ってしまう

著者：美学思想家 古川玲奈
発行：Raffiné
2026